

8 次世代産業の推進について

(財務省、経済産業省、国土交通省、文部科学省、環境省)

【内容】

- (1) 燃料電池自動車（FCV）については、初期における普及促進が不可欠であることから、FCVの購入に対する補助などの支援制度を継続すること。また、水素ステーションの円滑な整備を図るため、規制の見直しの着実な実施や、整備・運営コストの負担を軽減するための支援制度の拡充を図るとともに、水素エネルギー社会構築に向けた水素関連技術の開発及び実証を推進すること。
- (2) 当地が推進する「アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」に関し、次世代環境航空機の政府及び関係機関への導入支援や、海外へのトップセールスの実施により、その普及拡大を支援する。併せて、航空機製造の需要増加に対応するため、現場での製造作業に携わる製造技術者の育成を促進すること。
- (3) ロボット産業の集積を促進するため、政府関係研究機関の移転も含め、研究開発・実証評価を行う拠点の整備等、当地におおきく貢献する様々な取組に対して支援を行うとともに、無人飛行ロボットや自動走行技術等の円滑な普及を促進するため、電波法や航空法、道路交通法等の規制緩和を早急に進めること。また、当地のロボット産業界を世界に発信するために、大規模イベントを開催すること。
- (4) 付加価値の高いモノづくり技術の研究開発拠点である「知の拠点あいち」のさらなる研究基盤強化に向け、「先端研究基盤共用促進事業」等により、引き続き支援を行うこと。

(背景)

- 平成26年12月に発売されたFCVの生産には、愛知県のモノづくり技術が活用され、基幹産業である自動車産業の持続的な発展に寄与することが期待される。
- 本県では、平成26年2月に「愛知県水素ステーション整備・配置計画」を策定し、FCVの普及及び水素ステーションの整備に関する目標値を設定するとともに、これらの普及・整備を促進するため、国・県・市町村及び民間企業が一体となって取り組むこととしている。
- MRJの量産開始に加え、B777X型機プロジェクトへの我が国メーカーの参画決定などにより、航空機製造技術者への需要増加が見込まれる一方で、現在、技能・技量の資格制度が存在せず、人材育成は民間企業の社内教育に頼る状態である。国土交通省を中心に産学官連携の協議会において、製造技術者の技能・技量の認定制度の創設に向けた検討が進められているが、航空機産業の集積する当地域における育成体制を構築するため、制度創設の早期実現が必要である。
- 本県では、世界に誇れるロボット産業拠点の形成を目指し、平成26年11月に「あいちロボット産業クラスター推進協議会」を設立した。本協議会では、ロボットの開発側と利用側の双方が参画する3つのワーキンググループ（「製造・物流等」、「医療・介護等」、「無人飛行」）を立ち上げ、開発や実用化、普及に関する具体的な取組を進めている。

- 平成27年8月、国立長寿医療研究センター内に、「あいちサービスロボット実用化支援センター」を開設し、医療や介護をはじめとするサービス分野のロボットの実用化や普及の支援を行っている。
- 国は、地方創生に資すると考えられる政府関係機関について、地方移転を進めるとしており、平成27年8月末まで道府県等から移転の提案を募集され、平成27年度末には移転機関が決定される予定となっている。
- 平成27年8月28日に、無人飛行ロボットや自動走行技術、リハビリ支援ロボットなどの近未来技術の実証を行っていく国家戦略特区に愛知県が指定された。
- 政府は、平成27年1月に、ロボットによる新たな産業革命の実現に向けた「ロボット新戦略」を策定した。ロボットに関わる規制改革（電波法、航空法、医薬品医療機器等法等）やロボットを対象とした競技会「ロボットオリンピック（仮称）」の検討等、5カ年計画のアクションプランを示している。
- 「知の拠点あいち」は、FCVや次世代航空機の部材開発等を支援する最先端研究開発拠点であり、多くの中堅・中小企業にも利用されている。平成27年度は「知の拠点あいち」の「あいちシンクロトロン光センター」において、新たに2本のビームラインを供用開始するとともに、さらに新規で1本の整備を進めている。これまで以上に利用促進及び事業化促進が重要となることから、「先端研究基盤共用促進事業」による新たな支援の延長が必要である。

(参 考)

◇ 愛知県水素ステーション整備・配置計画の概要

[目 標]

【FCV普及目標台数】

2025年度 累計台数 20万台達成

【水素ステーションの整備目標数】

2015年度末 20基

2025年度末 100基程度



とよたエコフルタウン水素ステーション

◇ 県内で生産に関わる航空機の受注数及び生産予定

	受注数	2014	2015	2016	2017	2018	2019
B777	564	8.3機/月▶▶	777-X 生産開始▶▶
B787	843	10機/月▶	12機/月▶▶	14機/月
MRJ	407	(試験機生産)	初飛行	(量産)	量産初号機納入▶▶

※受注数には、オプション契約を含み、数値等は各社の公表に基づく(平成26年12月現在)。

◇ あいちサービスロボット実用化支援センターの概要

[開設場所] 国立長寿医療研究センター内

[開設時期] 平成27年8月17日

[取組内容] ①モノづくり企業に対するサポート

- ・医療・介護施設、大学・研究機関、企業等の紹介
- ・開発や実用化に関する技術的な相談対応
- ・開発品の普及促進に関する相談対応 等

②サービスロボットの展示

- ・県内で開発されているサービスロボットの实演展示